

令和6年度 大田区立館山さざなみ学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

本校は、千葉県館山市に位置する全寄宿舎制の区立病弱特別支援学校である。区内小学校3年生から6年生までの児童が家庭を離れ、ぜん息、肥満、偏食、虚弱の健康課題を克服するために、寄宿舎生活の下に生活・学習に取り組んでいる。教育課程は各教科の年間授業時数を含め通常校と同様であるが、特別支援学校であるため、加えて年間35時間の健康課題克服のための「自立活動」の時間を設定している。児童の指導においては、学校と寄宿舎が連携の下に、少人数制の利点を活かした「学力の定着と向上」や、集団生活中で互いを認め合いながら自己肯定感や自信を培う「生活指導の充実」に取り組んでいる。また、本校が所在する地域は、学校設置者であり保護者が生活している「大田区」とは異なる環境下にあるが、地元近隣の小・中学校も含め、地域の方々とは非常に協力的で、本校の教育にも理解を示している。大田区随一の病弱特別支援学校が果たすべき役割を踏まえた上で、学校と地域、そして家庭間でより一層の連携強化を実現している。

令和7年3月31日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄																				
								評価	人数	コメント																		
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未成 来社来 会すを 創造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:	「おおむねできた」と全教員が回答した。	年度末児童アンケートの「タブレットや電子黒板などのICT機器を使う授業では、勉強が分かるようになった。」という質問項目で、 成果指標 A: とても思う B: 少し思う C: あまり思わない D: まったく思わない 回答者数 17／17名	A: 8名	◆STEAM教育・科学教育については、次年度より本格実施となる大田区独自教科「おたの未来づくり」科に向けた取り組みを行った。地域の方との連携で稲作、トウモロコシ・レタスの収穫など食材を中心とした体験活動を行った。生育過程での雑草抜き、害虫駆除、水替えなど農家の方が苦労している内容についても、校内の農園を活用してサツマイモの生育時で雑草抜き、害虫駆除など児童が取り組める範囲で積極的な活動を行った。来年度は、自然体験に加え、本校の教育活動を児童がプレゼンし、区内へ発信できるような取り組みを実施し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っていく。	A	6	◆来年度以降も、地域の特徴を活かした自然体験が続けただければ、「さざなみ学校」らしい教育が展開できるのではないかと思います。ICTを活用して発表活動につなげていく活動も素晴らしいと思います。 ◆授業参観でタブレット・電子黒板を活用しながら、児童が興味をもって意欲的に授業に参加する姿が見られた。 ◆体験を通して、子どもたちの題材に対する見方・考え方が育っていると思う。 ◆5学年の交流授業、ありがとうございました。次年度も継続していただき、互いに学校を理解したり、一緒に活動できる範囲を広げていけたらよいなと思います。 ◆3年生社会科でおじやしました。次年度も景色を見させていただきたいです。よろしく願いいたします。																		
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4:				成果評価 4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が70%以上 1: 肯定的評価が70%未満	B		8	◆ICT機器を活用した授業は、タブレット端末の活用をはじめとして、各教員の創意工夫によって日々実施し、児童にとって分かりやすく、理解を深めることができている。児童が主体的に機器を活用した学習もツールを活用する時間を意図的に設定し、取り組みながら情報活用能力の育成に引き続き取り組む。	B	1														
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						C		1		◆ICT機器を活用した授業は、タブレット端末の活用をはじめとして、各教員の創意工夫によって日々実施し、児童にとって分かりやすく、理解を深めることができている。児童が主体的に機器を活用した学習もツールを活用する時間を意図的に設定し、取り組みながら情報活用能力の育成に引き続き取り組む。	C	0													
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						D		0				D	0												
			4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。						4:		成果指標 A: とても思う B: 少し思う C: あまり思わない D: まったく思わない 回答者数 17／17名				A: 13名	◆ALT(外国語教育指導員)の授業を毎回楽しみにしていて、意欲的に取り組む児童は多い。打ち合わせなどでALTとの連携もスムーズに実施できている。授業をより内容の濃いものに高めるために、教員が、Tとしての資質能力を高めるための研修の充実をさらに図っていく。	A	6	◆神戸地区は歴史の深い地域ですので、いろいろと調べてみてはどうでしょうか。 ◆地域の方々との触れ合いが、他を認めるなどの人権意識を高めるのではと思います。									
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。														4:	成果評価 4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が70%以上 1: 肯定的評価が70%未満		B: 3名	◆ALT(外国語教育指導員)の授業を毎回楽しみにしていて、意欲的に取り組む児童は多い。打ち合わせなどでALTとの連携もスムーズに実施できている。授業をより内容の濃いものに高めるために、教員が、Tとしての資質能力を高めるための研修の充実をさらに図っていく。	B	1					
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	C: 1名	D: 0名	C		0	D	0																					
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				4:				成果指標 A: とても思う B: 少し思う C: あまり思わない D: まったく思わない 回答者数 17／17名		A: 15名		◆算数の補習については、学校では放課後の学習、土曜授業による補習を実施しており、寄宿舎では、平日の学習や夜学(午後9時から9時半までの学習)授業のない日の午後1時半から実施している。学校では児童に対して少人数の学習を実施することが可能であり、自己の課題に応じた学習で学力の定着を図ることができている。										A	6	◆健康に課題のある児童の個々への対応があり、大変だと思いますが、充分できていないのではないかと思います。 ◆運動会の様子を見るかぎり、運動に慣れ親しみ、いやがらずに取り組んでいるようにみられた。日々の取り組みの成果だと思われる。 ◆病弱特別支援学校としての本質を的確におさえ、体質改善や運動を好きになったという答えが、学校の取り組みの成果だと思います。 ◆自然の中で体を動かす環境は、子どもたちにとって素晴らしいことです。この地域ならではの財産でしょうか。 ◆「3」がありますが、課題が見えているということは、とってもいいことです。				
4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。													4:									成果評価 4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が80%以上 1: 肯定的評価が70%未満	B: 1名		◆本校では、健康課題克服のために、自立活動の時間での持久走・なわ跳び、休み時間や放課後の1時間遊びを中心に体力づくりに取り組んでいる。また、区内と比較し、習い事やスイミングやサッカー教室等のスポーツ教室に通い回って過ごす生活と比べて、休日遊びで運動を行う時間は充実している。そのため、運動を行うことに対し区内の生活と比べ肯定的に捉え、運動することが好きになった児童が90%を超えている結果となった。	B	1	
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。														C: 1名												D: 0名	C	0
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									4:		成果指標 A: とても思う B: 少し思う C: あまり思わない D: まったく思わない 回答者数 17／17名				A: 15名	◆算数の補習については、学校では放課後の学習、土曜授業による補習を実施しており、寄宿舎では、平日の学習や夜学(午後9時から9時半までの学習)授業のない日の午後1時半から実施している。学校では児童に対して少人数の学習を実施することが可能であり、自己の課題に応じた学習で学力の定着を図ることができている。			A									
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																	4:	成果評価 4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が80%以上 1: 肯定的評価が70%未満	B: 1名	◆本校では、健康課題克服のために、自立活動の時間での持久走・なわ跳び、休み時間や放課後の1時間遊びを中心に体力づくりに取り組んでいる。また、区内と比較し、習い事やスイミングやサッカー教室等のスポーツ教室に通い回って過ごす生活と比べて、休日遊びで運動を行う時間は充実している。そのため、運動を行うことに対し区内の生活と比べ肯定的に捉え、運動することが好きになった児童が90%を超えている結果となった。	B							
4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	C: 1名	D: 0名	C		0	D	0																					
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				4:				成果指標 A: とても思う B: 少し思う C: あまり思わない D: まったく思わない 回答者数 17／17名		A: 15名		◆算数の補習については、学校では放課後の学習、土曜授業による補習を実施しており、寄宿舎では、平日の学習や夜学(午後9時から9時半までの学習)授業のない日の午後1時半から実施している。学校では児童に対して少人数の学習を実施することが可能であり、自己の課題に応じた学習で学力の定着を図ることができている。									A			6				
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													4:								成果評価 4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が80%以上 1: 肯定的評価が70%未満	B: 1名	◆本校では、健康課題克服のために、自立活動の時間での持久走・なわ跳び、休み時間や放課後の1時間遊びを中心に体力づくりに取り組んでいる。また、区内と比較し、習い事やスイミングやサッカー教室等のスポーツ教室に通い回って過ごす生活と比べて、休日遊びで運動を行う時間は充実している。そのため、運動を行うことに対し区内の生活と比べ肯定的に捉え、運動することが好きになった児童が90%を超えている結果となった。	B	1			
1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。														C: 1名										D: 0名	C	0	D	0
4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。									4:		成果指標 A: とても思う B: 少し思う C: あまり思わない D: まったく思わない 回答者数 17／17名				A: 15名	◆算数の補習については、学校では放課後の学習、土曜授業による補習を実施しており、寄宿舎では、平日の学習や夜学(午後9時から9時半までの学習)授業のない日の午後1時半から実施している。学校では児童に対して少人数の学習を実施することが可能であり、自己の課題に応じた学習で学力の定着を図ることができている。												
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。																	4:	成果評価 4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が80%以上 1: 肯定的評価が70%未満	B: 1名	◆本校では、健康課題克服のために、自立活動の時間での持久走・なわ跳び、休み時間や放課後の1時間遊びを中心に体力づく								

学 校 別 力 目・標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	年度末児童アンケートの「前より勉強が分かるようになった。」という質問項目で、 成果指標 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない 回答者数 17／17名	A: 15名	4	◆教員の資質・指導力向上のために、都や区主催の研修会、区内の研究発表会や房総3校研究協議会の授業公開に積極的に参加することができた。またICT教育の指導向上を図るため、ICT教育支援員を交えた「ミニ研修」を15回程度実施でき、最新のソフトの使用法や児童への効果的な使い方について理解を深め、指導に生かすことができた。次年度は、館山市内近隣校との研修交流も模索していく。	A	6	◆子どもたちの様子から安心して過ごしている雰囲気伝わってくる。日々、一人一人を認め励ましている成果だと思われる。 ◆神戸の小中学校への参観を実施し、それぞれの職員間の交流も実施してみてもどうか(合同による教材研修など)。 ◆地域の特色、フル活用です。「卒業後」という話もありましたが、よい心の財産を持った子どもたちは、大丈夫だと思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	B: 2名			B	1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4		C: 0名			C	0	
						D: 0名			D	0	
た 自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い き 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	年度末保護者アンケートで「学校は、子供たち一人一人の良さを認め、伸ばす指導をしているか。」という質問項目で、 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない E:無回答 回答者数 17／17名	A: 14名	4	◆教員や寄宿舎指導員の生活指導において、「生活のルールを守り、相手を意識した学校・寄宿舎生活意識の向上」を目指した指導は、粘り強い指導を続け定着してきている。日頃から児童が孤立させることなく、互いに関わり合うことを意識させ、相手を思いやりと同時に自分を大切にすることも重点に、今後指導を行う。また各家庭・保護者とも連携し、社会的規範意識を向上させていく。 ◆今年度は、校内においていじめの事案は確認されていない。児童間の些細なトラブルにもきめ細かに対応し、各児童に対して指導や心のケアを行うことができた。今後も児童の心の様子を探るメンタルヘルスチェックや学級内児童の人間関係を探るハイバーQU調査などを通じて、児童の観察をより細やかにに行い、いじめの未然防止に努めていく。	A	7	◆寄宿舎の指導もあり、目に見えない苦労もあると思います。いきいきと生活できている姿がすばらしいと思います。 ◆一人一人の児童にあらゆる場面で、職員が声かけしている姿はとても良い。 ◆健康課題はそれぞれですね。この環境を活用すれば大丈夫かと思っています。
		②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	成果評価 4:肯定的評価が95%以上 3:肯定的評価が90%以上 2:肯定的評価が80%以上 1:肯定的評価が80%未満	B: 3名			B	0	
		③問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	1:肯定的評価が80%未満	C: 0名			C	0	
						D: 0名			D	0	
安 柔 個 心 軟 別 で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 び 習 く 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	年度末保護者アンケートで、「学校は、避難訓練などを通して、安全に関する教育を適切に実施しているか。」という質問項目で、 成果指標 4:とても思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:まったく思わない 回答者数 17／17名	A: 9名	4	◆避難訓練については、年間13回を計画し、学校・寄宿舎ともに連携しながら早期や夜間も含めた時間帯を設定して実施した。館山消防署神戸分署の協力を得て合同避難訓練も実施した。安全指導日には、全校一斉で体育館にて、校内校外での安全や交通安全、防災、長期休業中の過ごし方などについて指導を行った。次年度は、救命救急講習について、実施時期を年度当初に設定し、より効果を図っていく。	A	4	◆校外に出る際、道路でさざなみの子と出くわしたとき、道をゆずると、頭をさげてお礼する場面がありました。ルールなどを守る以上に、教育のきめこまかさを感じた出来事でした。 ◆連携できているので、大丈夫です。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	B: 8名			B	3	
						C: 0名			C	0	
						D: 0名			D	0	
学 地 学 校 域 校 別 を コ・目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	年度末保護者アンケートで、「学校は、情報公開することができているか。」という質問項目で、 成果指標 4:とても思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:まったく思わない 回答者数 17／17名	A: 8名	4	◆児童が寄宿舎生活を行う本校保護者の「開かれた学校」に対するニーズは、とても高い。特にホームページの情報公開では、日々の教育活動や寄宿舎での活動、月の献立、行事関係について知りたいという要望は高い。今年度は特に意識してほぼ隔日ベースで情報を更新するよう努めた。また、副籍校訪問の事前調査や教育活動アンケートなどにGoogleFormsを用いるなど情報化に努めた。次年度以降も強力に推進していく。 ◆地域教育連絡協議会を、学校公開(道徳授業地区公開講座・運動会・学習発表会)時に開催した。特に道徳授業地区公開講座では、御参観いただいた委員の方から温かなお言葉やコメントをいただいた。また委員のご尽力のおかげで農に関する体験教育活動を実施できている。	A	7	◆地域との連携・協働を今後も続けていただければと思います。(子どもたちに郷土の意識をもたせるのは、短い期間で難しいと思いますが、ぜひ館山の自然に親しんでいただければと思います。) ◆授業参観や行事等、積極的に学校公開をしていると考える。また、訪問した際、対応も丁寧であたたかい雰囲気を感じる。 ◆学校通信、寄宿舎だよりは、とてもよい。 ◆地域の特性を生かした活動を行えていると思います。 ◆100点です。
		②自然や地域の人材を生かした、体験活動を取り入れた授業や行事を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	B: 8名			B	0	
						C: 0名			C	0	
						D: 0名			D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。